

実践報告

体験活動を取り入れた道徳授業に関する考察 ー第2学年における「職場体験活動」での気づきを生かした 授業づくりを通してー

田中 千恵子* ・ 園田 貴章**

Experiential Activities and Moral Education:
Consideration Based on Place-of-Work Experiential Activities of the Second-Year
Student in a Junior High School

Chieko TANAKA* and Takaaki SONODA**

【要約】

本校道徳部会で取り組んでいる内容の一つに、体験活動を取り入れた授業開発がある。本授業では、職場体験活動を通して気づかせたい道徳的価値（ここでは、人間としてよりよく生きるには目標や希望をもつことが大切であること、また、その目標を達成しようとする強い意志が必要であること）について、道徳の授業を通して深化させたいと考えた。職場体験活動での気づきと読み物資料を関連づけながら考えることで、自分の将来に対してなかなか前向きになれずにいた生徒たちも、少しずつではあるが自らを高める努力をすることの大切さを感じることができた。

【キーワード】

職場体験活動と道徳の時間の連携、家庭・地域との連携、連想法による評価

1. はじめに

平成20年3月告示の新学習指導要領総則において、「学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校教育活動全体を通じて行うこと」、「児童生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行うこと」の2点が道徳教育の一般方針とされた。中学校の総合的な学習の時間として取り組まれる職場体験活動も、「社会との関わりを踏まえ、人間としての生き方を見つめさせる」という発達課題に応じた指導として、道徳教育の一環として位置づけられた。総則においては、次のように述べられている。「道徳教育を進めるに当たっては、教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めるとともに、生徒が道徳的価値に基づいた人間としての生き方について自覚を深め、家庭や地域社会との連携を図りながら、職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を通して生徒の内面に根ざした道徳性の育成が図られるように配慮しなければならない。」つまり、生徒の道徳性の育成に資する体験活動として、職場体験活動を推進することが求められている。

本校の研究としては、平成24年度新たに「道徳カリキュラム研究部会」が立ち上がった。本校の生徒は、道徳の授業で発言が少なく、なかなか本当の気持ちや意見を述べようとしない。発言によって自己表現することに自信がもてなかったり、発言することに価値を見いだせなかったりするような思いからきているものと推測される。自分の考えが他者に認められ、大きな影響を与えることができたというよ

*佐賀大学文化教育学部附属中学校

**佐賀大学文化教育学部附属教育実践総合センター

うな体験を積み重ねることで、自他を理解し、かけがえのない自他を大切にする心情が養われると考える。そこで、次の4つの視点で道徳の授業開発に取り組むことにした。

(1) 「言語活動の20要素」を取り入れた授業開発

(2) ICTの活用を取り入れた授業開発

(3) 体験活動を取り入れた授業開発

(4) モラルジレンマを取り入れた授業開発

以上のようなことから、本実践では、今回の改訂において新たに加えられた職場体験活動における体験を活かした授業を展開することにした。

2. 授業実践概要

(1) 研究対象となる学級

本学級の生徒は、明るく活発で男女の仲も良い。9月に3日間の日程で行った職場体験活動にも意欲的に取り組み、充実感を味わうことができた。体験後に作成したレポートには、「楽しかった」、「やりがいを感じた」、「大変だった」といった感想が多く書かれており、職場体験活動を通して、「勤労の喜び」「責任や使命」について感じることもできたと思われる。しかし、将来、どのような職業に就き、どのような生き方をしたいかということに関しては、「なりたい自分」の姿を具体的に描き、こつこつと努力ができる生徒がいる反面、自分の将来に対してなかなか前向きになれずにいる生徒も多い。これは、PISA調査などの各種調査の結果から課題として言われている「自分への自信の欠如や自らの将来への不安」ともつながるものである。

(2) 主題名および主題設定の理由

夢の実現を目指して 内容項目1ー(2)「希望・強い意志」

人間としてよりよく生きるには、目標や希望をもつことが大切である。生徒たちは、総合的な学習の時間の「CAREER」で行った職場体験活動の中で、それぞれの職種でプロとしてプライドを持ち、日々質の高いサービスや技術の提供を目指して努力されている職業人の姿を見てきている。そこで、その職場体験活動での気づきを生かして、「なりたい自分」に向かうためには、より高い目標を目指し、希望をもって自分のなすべきことを粘り強く着実にやり抜く強い意志と態度が大切であることを感じさせたいと思い、本授業を構想した。

(3) 本授業に至るまでの、総合的な学習の時間「CAREER」を中心とした取り組み

- | | |
|-----------------------------------|---------------------|
| ① ふれあい講演会（学年育友会行事） | ……………2時間（7月12日） |
| ② 職業調べレポート作成（学年育友会からの課題） | ……………夏休み |
| ③ 職場体験活動事前学習（総合的な学習の時間「CAREER」） | ……………11時間 |
| ④ 職場体験活動（総合的な学習の時間「CAREER」） | ……………3日間（9月19～21日） |
| ⑤ 職場体験活動レポート作成（総合的な学習の時間「CAREER」） | ………3時間（9月27日・10月4日） |
| ⑥ 職場体験活動発表会（総合的な学習の時間「CAREER」） | ……………3時間（10月11・18日） |
| ⑦ 夢の実現を目指して（道徳） | ……………1時間 |
| ⑧ 保護者への手紙（学活） | ……………1時間 |

(4) 連想法による意識調査（事前と事後の比較）

授業を構想するにあたり、連想法による意識調査を行った。授業のキーワードになる「夢」という語から連想する語を50秒間で思いっただけ書かせるということを行った。その後、その語を連想した理由を記入させた。

同じ調査を道徳授業後1ヵ月ほど経ってから行い、結果を比較することで、授業評価の指標の一つとした。

3. 授業の実際

(1) 職場体験活動を振り返る場面の設定

9月19日から3日間の日程で職場体験活動を行った生徒たちが、その振り返りのためのレポートを作成したのがその翌週の9月27日と10月4日である。そのレポートをもとに職場体験活動発表会を行ったのが、10月11日と18日である。本授業は11月22日に実施したので、生徒たちは1ヵ月以上前の活動を思い出しながらか授業を受けることになってしまった。本授業は、生徒の職場体験活動での気づきを生かした授業というコンセプトであったので、まずはその時のことをしっかりと思い出させることが必要であると考え、職場体験活動中の写真や生徒たちが作成したレポートを提示したり、体験先の方からのメッセージを紹介したりした。生徒たちからは、「そうだった、このような活動をした」、「懐かしい」、「あの時は大変だった」などのつぶやきが聞かれた。授業の導入に割くことができる時間には限りがあるため、あらかじめ提示予定の写真やレポートなどに加え、いくつかの体験先からのメッセージを教室前の廊下に掲示しておいた。これについても、生徒たちは互いに職場体験時の話をしながら見ている。

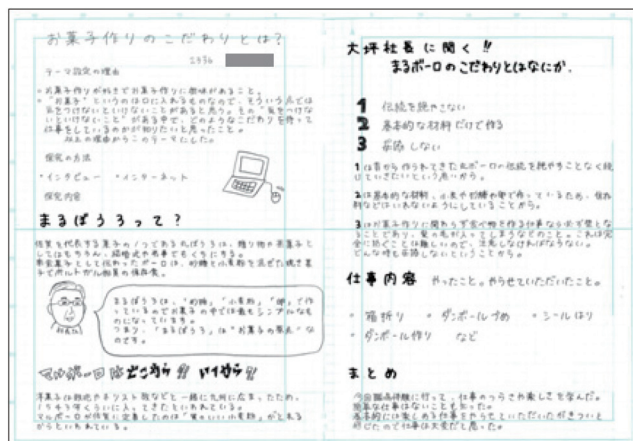


図1 導入で提示したワークシート



図2 体験を終えての掲示物

(2) 資料を読み、考える場面での生徒の考えの深まり

～授業中の教師と生徒、生徒と生徒のやりとりおよび、生徒のワークシート記述より～

展開の場面では、まず、事前に行った連想法による調査結果を紹介した。対象学級の生徒たちの「夢」というキーワードに対する回答が「叶わない」「ない」というものが多かったことをあげ、「なりたい自分」の姿を描くことができないと感じている理由を尋ねた。生徒の反応は、以下の通りである。(以下の生徒の記号は、その発問に対して反応した生徒の順番を示している。)

- 生徒A：自分に自信がないから。
 生徒B：そこまで考えていないから。
 生徒C：夢がないから。
 生徒D：自分の夢がよくわからないから。
 生徒E：やりたいことがないから。
 生徒F：やりたいことがないから。
 生徒G：やりたいことがないから。
 生徒H：まだ、そこまで考えていないから。
 生徒I：やりたいことがないから。

次に、学校歯科医の重松守先生の写真を提示し、先生との対談を基にした資料を読んだ。そして、大まかな対談の内容を確認しながら、重松先生の進路選択に対する思いを考えさせた。

教 師：……（中略）……重松先生は工学部でエンジニアを目指していたんだけど、でもやっぱり医学部を受けようと…まあ医学部からお医者さんというつながりだと思っただけでも、歯学部を受けようというふうに思われたのは…。歯学部への変更を考え始められた頃の先生、どんな心境だったと思いますか？いろんな複雑な思いでおられたと思うんですけど、工学部に入学をされて、それでも歯学部に変更ということを考えた時、どんな心境でいらしたと思いますか？Aくん、どうですか？

生徒A：えっと、やっぱりもう一度医学部にチャレンジしたいという気持ち

生徒B：自分がやりたいことをやる。

生徒C：Aくんと同じなんですけど、やっぱり自分のやりたいことにチャレンジしたい気持ち。

生徒D：頑張ってみよう。

生徒E：もう一回挑戦してみよう。

生徒F：喜んでもらえる仕事がしたい。

生徒G：医学部に行きたかったなあ。

生徒H：あきらめたくないなあ。

生徒I：やっぱり自分の夢を叶えたい。

生徒J：前にあるように、やっぱり医学部で自分の好きなことをやりたい。

生徒K：自分がどこまでできるかやってみたい。

生徒L：どうしてもあきらめたくない。

生徒M：本当に自分がしたいことをしたい。

※下線は加筆

この場面では、おそらく希望と不安が入り交じった複雑な気持ちでおられただろうことを推測させたかったが、前向きに取り組もうとする心情ばかりが出てきて、不安な気持ちを感じ取ったような発言は出てこなかった。人生の大きな転機で一步を踏み出すときは希望と共に不安がつきまとうものであることを考えさせたかったが、思うように生徒の発言を促すことができなかった。

この後、重松先生が歯科医として充実した生き方をされている理由を考えさせた。

教 師：……（中略）……重松先生、歯医者さんの話を始められたら、すごく楽しそうに生き生きとお話をして下さいました。相当充実した生活をされているんだろうと私は思ったんですけど…。あなたたちの前にも登場していただいて、いろんなことをしていただいています。重松先生が、現在、歯科医として生き生きと仕事をされているのはなぜだと思いますか？今現在の先生をあなたたちは知っていると思いますが、重松先生が生き生きと仕事をされているのは何でだと思いますか？

生徒A：自分がやりたかったことをしているから。

生徒B：喜んでもらえる。

教 師：例えばどんなことが想像できますか？

生徒B：自分の仕事を活かして授業ができる。

教 師：なるほどね。授業できること。歯医者さんとしての活動だけでなく授業もできる。でも、授業するのって相当大変だよ、きっと。私はそれを仕事にしていますけど、それでも大変

だと思うので、相当大変だろうなあと思います。そしたら、Cさん、いかがですか？

生徒C：自分が、やりたいことをやっているから。

教 師：そしたら、Dさん、どうですか？

生徒D：やっぱり自分が追いかけていた夢が叶ったので、やりがいを感じているからだと思います。

教 師：Eさん、どうですか？

生徒E：仕事をしていて楽しいから。

教 師：何で楽しいと感じたとやろうか？

生徒E：えっと、自分がやりたいことができるから。

教 師：自分がやりたいことができるから。Fさん、どうですか？

生徒F：仕事にやりがいを感じているから。

教 師：仕事にやりがいを感じているから。うん。Gくん、どうですか？

生徒G：とりあえず満足。

教 師：とりあえず満足している…。

職場体験でみなさんがお世話になった人たちも同じようなことを言われていたり、表情生き生きとされたりしてなかったですか？……（中略）……あの時、あなたたちが職場体験で見た人たち、職場体験先でお世話になった人たちも同じように生き生きと仕事をされていたと思うんだけど、あの方たちのその原動力って何だろう？

生徒H：接する人の喜ぶ顔が見れる。

教 師：接する人の喜ぶ顔が見れる。うん。Iさん、どうですか？

生徒I：自分のした仕事が誰かの役に立っていたり、喜んでもらえたりする…

教 師：Iさんは、農業試験センターに行ってるんですね。作ったお米を喜んで食べてもらえるというところに喜びを感じていらしたということ…。Jさん、どうですか？

生徒J：誰かに感謝されたりすること。

※下線は加筆

この場面では、重松先生が歯科医として生き生きと仕事をされている理由を、生徒たちが実際に職場体験活動でお世話になった方々の仕事に対する姿勢と関連づけて考えさせたいと思っていた。生徒からは、自分がやりたいことをしているから、人の喜ぶ顔が見たいからという意見が多く出たが、授業者の意図としては、そこからもう少し踏み込んで、日々努力し続けることが大切であることにも気づかせたかった。

この後、職業人として充実した生き方をするために必要なことを考えさせるために、「人が生き生きと仕事をする原動力は何だろうか？」という発問を行い、グループ内で話し合いをさせた。ここでは、討議を行う話し合いの進め方をするように助言をし、各グループの司会担当者に進行させた。5分間の話し合いの後、各グループの発表係に発言をさせた。

教 師：机を戻してください。それでは1つずつでいいです。いっぱい出た班もありますが、全部の班に聞きますからとりあえず1個ずつ発表して下さい。同じ意見が出たならそれでかまいませんので、何班と同じだけということ結構ですから教えて下さい。今日は2班からいきます。

2 班：仕事をするときに、仕事の中での夢を見つけること。

教 師：仕事の中での夢。3班。

3 班：まだまだ挑戦したいことがある。

- 教師：まだまだ挑戦したいことがある…。4班さん、どうぞ。
- 4 班：えっと、給料。
- 教師：給料。
- 4 班：給料がもらえてやりがいとかそういうのがある。
- 教師：なるほどね。お金がもらえてやりがいがある。お金がもらえなかったらあんまりやりがいがない？
- 4 班：そうなんです。
- 教師：（4班の発表生徒）くんは、お金の分だけしか働かない？10円給料って言われたら10円分だけ…？
- 4 班：そういうことではない。
- 教師：そういうことではない。
- 4 班：あくまで…
- 教師：例えば、給料が10円って言われているけど20円分頑張ってみようかなあとか、そういうのはない？
- 4 班：そういうのはない。
- 教師：ないのか…。では、5班どうぞ。
- 5 班：心の支えとなるもの。
- 教師：心の支え。では6班どうぞ。
- 6 班：人に感謝されること。
- 教師：7班どうぞ。
- 7 班：えっと、やりがいがあると、仕事して楽しい。
- 教師：やりがいがあると楽しい。はい、8班どうぞ。
- 8 班：この仕事が好きだから。
- 教師：この仕事が好きだから。9班どうぞ。
- 9 班：楽しさを感じているから。
- 教師：楽しさを感じているから。10班どうぞ。
- 10 班：報酬と…社会に貢献したい。それと、自分の地位が上がる。
- 教師：報酬と、社会に貢献したいと、自分の地位が上がる。報酬の話が出たけど、（10班の発表生徒）さんは、…（4班の発表生徒）くんは10円もらえるなら10円分、20円もらえるなら20円分って言ってたけど、10円しかもらえない仕事で20円分の仕事、頑張る？1班、どうぞ。
- 1 班：自分がやったことに対して、人に喜んでもらえる。
- 教師：自分のやったことに対して人に喜んでもらえる…皆さんに渡したいものがあります。
- 生徒：お金？
- 教師：お金？そこ？寂しいなあ…お手紙。
- 生徒：ちょーやだ。そういうことか…
- 教師：全員分あると思います。お家の方からです。せっかくなので読んでみてください。

この場面では、グループ内での話し合いをしたりその後の学級全体での発表を聞いたりして、友だちの様々な考えに触れることで、新たな発見をしたり、自分の考えを強化したりすることを目指した。ここまでの授業の流れから、「夢を見つけること」「挑戦すること」「社会に貢献すること」などがあがったが、その他にも「給料」という意見があった。もちろん、給料も働く意欲に関しては大切な部分であ

る。他の意見に対してあまりにも現実味を帯びすぎていたのか、この意見に対しては、これまでの議論の中で生徒たちが一番大きな反応を示した。

(3) 自分自身を振り返る展望の場面での生徒の気づき ～生徒のワークシート記述より～

授業後の感想には、次のようなものがあった。

- 夢を持つことの大切さがよくわかりました。自分が必ずやりたいと思える仕事はあまりないと思うので、やりたくないことでもしっかりまじめにやっていきたいと思います。
- この授業で、仕事のやりがいとは何なのかということが分かりました。一番は、喜んでもらうこと、挑戦することであると分かりました。この授業を機に、将来を考えていきたいです。
- 夢について考えさせられた。今の所、これといった夢はないが、はやく見つけたいと思う。夢を持つことも大切だが、貫き通すのも大切だということも学んだ。
- 私も医学部志望だから、少し重ねて読んでみました。やっぱり人以上に勉強をして、「人の役に立つ」という強い思いがないと夢は実現されないと思いました。重松先生のように、粘り強く、夢に向かって進んでいきたいです。

また、保護者からの手紙についても、次のように記述しているものがあった。

- 親からの手紙も、将来を生きる参考になりました。やりがいのある仕事を見つけて、その仕事に就きたいと思いました。
- 今日の授業はビックリすることばかりでした。親からの手紙が来たときが、一番ビックリしました。家に帰って「ありがとう」と言いたいと思います。
- 私は実を言うと誰にも言っていないけどたくさんの夢があります。すごく叶えたいけど、無理だろうなと思っていました。だけど、先生の話や友だちの意見、お母さんからの手紙で、ちょっとがんばってみようかなと思いました。

4. 職場体験活動での気づきを生かした道徳授業づくりについての考察

今回の授業は、総合的な学習の時間「CAREER」で取り組んだ職場体験活動での気づきを生かし、具体的に「なりたい自分」の姿を描くことの意義について考えさせる機会とした。また、職場体験活動でお世話になった方々の仕事に対する思いを考えさせることで、職業人として生き生きと働くためには、自分のしていることが社会や人の役に立っているという実感を持ち、自らを高める努力をすることが必要であることを理解させたいと考えて行った。生徒たちが実際に職場体験活動を行ったのは9月19日から3日間、その後、職場体験レポートを作成し、発表会を行ったのが10月であったため、職場体験活動に関する意識がずいぶんと薄れてきていると考えられる時期の道徳授業の実施となった。本授業では、「職場体験での気づきを生かす」ことが大切な視点であったため、事前に職場体験時の写真や生徒が作成したレポートを掲示して、生徒がその当時の心境を思い出しやすいように手立てを行った。また、授業の中でも、職場体験活動に関する一連の流れを想起しやすいように、導入の時間で振り返りを行ったが、これにずいぶんと長い時間を費やしてしまった。体験を通した気づきを生かすという点でも、道徳の時間に生徒が少しでも多くの意見を出し合える時間を確保するという点でも、実際の体験からあまり時間をあけずに実施することが望ましいと感じた。

授業の展開の中で、「工学部へ入学し、エンジニアを目指していた先生が、歯学部への変更を考え始めたとき、どのような心境だったのだろうか。」という発問を行ったところ、生徒からは「やはり医学部

へ行きたい」、「やりたいことをやろう」、「挑戦してみよう」、「あきらめたくない」など、前向きな意見ばかりが出された。授業者の意図としては、希望とともに大きな不安もあり、複雑な心境であったろうことを推測させたかったが、不安に関わるような意見は一切出てこなかった。その後の発問に対する考えの深まりのためにも、先生の不安な気持ちを感じとらせたかったが、生徒からそのような意見を引き出すことはできなかった。普段、道德の授業内容は資料名を連絡するが、今回は主題名を連絡してしまい、子どもたち自身が「夢の実現を目指して」というタイトルから連想した、教師が望む答えと思っていることを意図して発表してくれたのではないかと感じた。

今回の授業にあたり、生徒には事前に連想法による意識調査を行った。授業のテーマである「夢」に対する連想語を書かせたところ、「ない」「叶わない」といった語が多く見られた。おそらく自分自身への自信のなさの現れではないかと思われるが、このことを道德授業を通して、少しでも前向きな気持ちに持って行きたいと考えた。授業では、本校歯科校医の重松守先生の談話を聞いたが、何度も自分の夢をあきらめそうになりながらも強い意志を持ち、最後は医師という目標をつかまれた先生の実話は、生徒の感想からも心に大きく響くものであったと考えられる。実際、授業後に再度行った連想法による意識調査では、授業前に比べ、「叶えるもの」「叶う」「目標」といった前向きな言葉が増えていた。学級全体として将来の夢に対する意識が高まったと判断できる。

地域・社会との連携という点においては、職場体験活動そのものが地域・社会との連携であり、生徒自身がリアルな体験をしたり、体験先で働く人々の生の姿や声を聞くことができる貴重な体験となっている。直接的な体験を通して得たものは、生徒の中に深く入り込んでいくものと思われる。そこで得たものを再度、道德の授業を通して掘り起こし、捉え直すことは、道德的価値に気づかせ、人としての在り方や生き方を考えるという点で有効であると感じた。また、今回使用した資料は、本校歯科校医である重松守先生が自身の体験を話してくださったものである。重松先生は対象学級の生徒たちが1年生のときに、「食」をテーマに授業をしてくださっており、生徒たちにとってもたいへん身近な存在の先生である。このような立場の方の話を聞くことで、生徒たちはより現実性を持って自分の生き方について考えることができたのではないかと思う。さらに、生徒たちにとって一番身近な職業人であり、また、誰よりも子どもたちを愛しみ、将来の充実した生活を望んでおられる保護者に協力をお願いし、我が子へのメッセージを手紙に託していただいた。授業の終末で手紙を受け取った生徒たちはたいへん驚いていた。うれしそうな、照れくさそうな顔をしながら手紙を読んでいる生徒の姿や感想から、保護者からのメッセージは心に強く響いたものと感じている。

5. おわりに

本実践では、今回の改訂で新たに加えられた職場体験活動を道德の時間とどのように関連させるかを模索した。生徒たちが体験活動を通して感じることで、学ぶことは非常に多い。本校でも、大運動会や文化発表会、ボランティア活動など様々な体験活動に取り組んでいるが、その中で大切にされている道德的価値について、道德の時間を通して深めることがあまりなされてこなかった。今回の実践を活かしながら、「学校における道德教育は、道德の時間を要として学校教育活動全体を通じて行うこと」との方針を受けて、様々な体験活動についても道德の時間との関連づけを行いたい。

【参考文献】

- 秋田喜代美・藤江康彦 「はじめての質的研究法 教育・学習編」 東京図書 2007.
林忠幸・堺正之「道德教育の新しい展開」, 東信堂, 2009.
上藺恒太郎「連想法による道德授業評価 教育臨床の技法」, 教育出版, 2011.

- 田沼茂紀 「人間力を育む道徳教育の理論と方法」北樹出版 2011.
- 文部科学省 「中学校学習指導要領解説 道徳編」 2008.